

令和8年1月21日(水)
大 会 議 室

令和7年度第1回新宿区消防団運営委員会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 定数の確認

4 委員の変更について

5 報 告

前回答申を踏まえた対応方針について（資料1）

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

6 議 題

諮問事項（資料2）

「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」

※ 諮問事項の課題と検討事項について報告し、次回会議までにアンケート調査などを実施して、新宿区消防団運営委員会としての方向性を定めることを審議する。

7 その他

今後の予定

8 閉 会

特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について

1 諮問事項等

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

【審議期間】令和5年8月から令和7年3月まで（1年8か月）

2 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくなくてはならない代替性のない存在であり、これまで地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところであり、今後も東京の安全安心を守っていくため、消防団が将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展による働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問がなされたものである。

3 主な答申と対応方針

凡例 ■ R7年度～ ■ 導入に向けた検討等 継続して推進

I 活動を継続したいと思える組織の活性化方策関係		主な答申	対応方針
① 訓練や都民指導の推進と負担軽減		○可搬ポンプによる放水を伴う実戦的な訓練の推進 ○地域特性に応じた訓練の推進 ○火災以外の災害対応訓練の充実	<input type="checkbox"/> 方面訓練場や署訓練施設の活用等、地域特性に応じた実戦的な訓練の推進 <input type="checkbox"/> 工夫した訓練の取組紹介による時勢に応じた活動の推進
		○防災や救急知識を活かした災害活動や訓練指導による地域貢献	<input type="checkbox"/> 火災出場時の確実な水利部署、積極的な消火活動の推進 ■ 災害や火災予防等の防災知識の向上（総合防災部と連携したアプリやマイタイムラインの普及等） <input type="checkbox"/> 防災訓練や総合防災教育における都民指導の推進
		○消防団行事の内容見直しや効率的な訓練による負担軽減	■ 新たな消防団点検の試行による団員一人ひとりの訓練機会の創出と負担軽減
② 講習や研修の充実		○既存の研修・講習の拡充及び取得資格を活かし続ける体制の確立	■ 機関員技術や各種資機材取扱い技術の新たな講習や研修の検討 ■ 可搬ポンプ実技講習の実施による消火活動力の向上と拡大の検討
		○協力事業所団員や特殊技能団員などのあらゆる分野に長けた消防団員を講師とした知識技術の教養	<input type="checkbox"/> 特殊技能団員や研修受講者による消防団内での教養の推進
③ 処遇の改善		○管轄外に転居や転勤をしても、継続して活動できる体制の構築	■ 転居、転勤等により在団資格を失うこととなった場合においても継続して活動できる体制整備
		○団員報酬、費用弁償の増額	■ 処遇改善のための費用弁償の増額
		○大規模災害団員や機能別団員を活用した入団促進及び退団抑制	<input type="checkbox"/> 大規模災害団員の普及促進による入団促進・退団抑制

II 活動環境の充実・改善方策関係		
	主な答申	対応方針
① DX化の推進等	○タブレット端末を活用した消防団事務の効率化	■タブレット端末更新に合わせた音声マイニングツールや 多言語ツール導入 に向けた検討による利便性の向上
	○緊急情報伝達システムや電話に代わるアプリ等を活用したスムーズな出場体制の確立	■ 出場指令 や各種連絡事項を個人スマホで受信できる 消防団専用アプリ の市場調査の実施による導入に向けた検討
	○OMC A無線の代替機種種の検討及び配置増強	■MC A無線機の更新機種及び各種無線機類の配置の最適化に向けた検討
② より活動しやすい資機材への発展的更新	○より安全性の高い防火服への改良	■ISO規格に準拠した新型防火服導入による安全性・機動力の向上 ■防火帽への階級標示シールによる消防署隊との連携強化の推進
	○瓦礫上でも容易に搬送できる運搬車の整備や各種装備資機材の軽量化・電動化	□既存資機材の更新に合わせた 軽量化・電動化 や耐久性の向上
	○分団本部の仮眠室や女性更衣室等の整備促進	□ 女性団員が活動しやすい環境（施設・服制） の整備推進
III 計画的な消防団員育成方策		
	主な答申	対応方針
① 教育訓練の改善	○経験豊富でリーダーシップのある消防団員からの訓練指導体制の確立	□指揮幹部課研修終了団員による各消防団における訓練内容や指導体制等の主体的な検討促進
	○技量や経験に応じた目標設定や経験が浅い消防団員への教育体制の確立	■新入団員への東京消防団e-ラーニングシステムによる基礎教育の充実（試行） ■消防救助機動部隊への視察研修の実施による意識醸成
	○操法訓練と実動訓練の目安などの自主的な検討	□ 実戦的な訓練の継続した推進
② 教材の充実	○実戦的な訓練・東京都大会・全国大会の実施方法の乖離による負担増に対する対応	□ 実戦的な訓練と操法訓練のバランスなど消防団による主体的検討 ■新たな消防団点検の試行による検証
	○東京消防団e-ラーニングコンテンツの充実等ソフト面の強化	■CG動画制作等による現場判断力や安全管理能力の向上 ■ 東京消防団e-ラーニングのコンテンツの更なる充実
	○経験の浅い消防団員に向けた教育訓練資料の充実	■災害現場で有圧水利等に部署する際の可搬ポンプ運用要領の整備
IV 消防団を地域住民により知ってもらう方策		
	主な答申	対応方針
① 地域や学校教育への参画	○区や町会主催の地域行事や防火防災訓練等による認知度向上	□総合防災教育における消防団員講師による防災の普及啓発の推進 □学校ネットワーク等を活用した地域連携への参画
	○消防少年団や総合防災教育における児童・生徒に対する防災指導	□防火防災訓練や総合防災教育における防火防災指導の推進
	○積極的な災害活動による地域貢献	□災害時における積極的な水利部署、下命に基づく放水活動の推進 □各区等と連携した消防団の地域貢献や協力事業所等の周知
② 募集広報の推進	○デジタルサイネージやSNSを活用した情報発信強化	□総合防災部、各区等と連携した多角的な広報の推進 □X（旧Twitter）、YouTube等の SNSを活用した消防団活動の募集広報の推進
	○区報等の地域情報誌を活用した特別区消防団のPR	■声掛けによる募集広報の機会を更に創出するため、団員募集カードの導入
	○消防団体験の導入及び制度の構築	■特別区消防団トライアル（体験実習）の導入に向けた検討 ■各防災関係機関（日本郵政、自衛隊等）と連携した入団促進

特別区消防団運営委員会の諮問について

1 諮問事項

切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について

2 審議期間

令和7年7月から令和9年3月まで（1年9か月）

3 諮問の趣旨

〈審議回数：令和7年度1回、令和8年度2回 計3回〉

令和6年元日に発生した能登半島地震では輪島市での大規模火災など17件の火災が発生し、消防団は自ら被災しながらも地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや消火活動など懸命な活動を展開されました。

首都直下地震では600件を超える火災が発生すると想定されており、地域住民の安全安心を守るには、消防署隊との連携した訓練や活動はもちろん、消防団が主体的に実戦的な訓練を推進し、災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが必要不可欠です。

その実現に向けては、地域社会の多様化に対応するために様々な主体との連携や取組に関する検討を進めるとともに、消防団の災害活動力を継続的に高めることが重要であり、併せて消防団員の負担軽減にも配慮した取組が求められます。

これらを踏まえ、切迫する首都直下地震などの大規模災害に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力を継続的に強化していくための方策について諮問するものです。



課題と検討項目 1（新宿区消防団運営委員会諮問）

課題 1

災害対応力の強化と訓練の実効性を高めることが重要である。

検討事項 1 首都直下地震を想定した実戦的な訓練の定着について

- ① **現行の訓練内容や方法の再評価による、効果的かつ効率的な訓練推進方策の提案**
 - ・ 実災害の教訓を踏まえた訓練内容の見直し、ブラッシュアップ
- ② **東京消防団e-ラーニングシステムを有効に活用した教育訓練体系の構築**
 - ・ 東京消防団e-ラーニングシステムの進捗管理や習熟度の「見える化」による体系的な教育訓練の実現
- ③ **訓練経過や訓練内容の「見える化」（アプリとの連動など）の推進方策の検討**
 - ・ 消防団専用アプリ等を活用した訓練記録の共有やデータ化の推進
- ④ **実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進**
 - ・ 消防署との連携訓練のパッケージ化や中長期的な視点に立った訓練計画の策定
- ⑤ **震災等における長期間の活動継続を視野に入れた訓練の検討と課題の抽出**
 - ・ 消防団単独の長期間活動や、災害現場での交代で活動することを想定した「活動継続力」の訓練実施と課題の抽出

検討事項 2 消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の推進と充実について

- ① **各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討**
 - ・ 住宅密集地や商業地、河川沿いなど地域ごとのリスク特性を踏まえた火災対応訓練の企画と実施方策
 - ・ 消防団員の構成（高齢化、女性、若年層など）に応じた柔軟な訓練スケジュールや内容の設定
- ② **東京消防庁の方面訓練場や消防署訓練施設の有効活用に向けた方策の検討**
 - ・ 震災などの大規模災害を想定した隣接消防団との災害現場での連携活動を踏まえた訓練の実施

課題と検討項目 2（特別区消防団運営委員会諮問）

課題 2

消防団員の負担軽減と活動環境の最適化が重要である。

検討事項 1 消防団活動の効率化による負担軽減について

- ① **消防団専用アプリ等の導入による消防団運営の効率化や情報連絡体制の強化**
 - ・ 出場指令や連絡事項のリアルタイム通知（個人スマホへのプッシュ通知等）による迅速な情報共有
 - ・ 報告書類のオンライン提出や団員証、団員手帳等の電子化など、事務手続の簡素化、効率化
- ② **各種資機材の機能性、利便性向上に向けた改善方策の検討**
 - ・ 可搬ポンプ積載車のコンパクト化やEV化などの操作性、移動性の向上
 - ・ 災害時の実情を踏まえ、現行資機材の有効性を再評価し、真に必要とされる資機材のあり方の検討
- ③ **従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討**
 - ・ 新たな消防団点検の試行等を踏まえた「続けやすい消防団」の実現
- ④ **操法大会（訓練含む。）の工夫や改善などへの提案**
 - ・ 「競技性」から「実効性」重視への見直し提案

検討事項 2 多様な主体との連携による被害軽減方策について

- ① **各区、防災関係機関と連携した更なる入団促進**
 - ・ SNSや地域広報誌等を活用した消防団の魅力の発信
- ② **町会自治会や学校コミュニティ等との更なる連携強化**
 - ・ 町会、学校等と連携した入団体験の実施など、地域住民が消防団活動を身近に感じ理解を得る機会の創出
 - ・ あらゆる機会を捉えた消防団活動の理解促進
- ③ **在留外国人、外国人観光客への防災指導等に関する検討**
 - ・ 多言語による防災啓発資料等を整備するなどの、消防団による外国人に対するわかりやすい防災指導の在り方の検討

【令和7年度 第1回新宿区消防団運営委員会】

『議事録』

令和8年1月21日 開催

議事録

委員会：令和7年度第1回新宿区消防団運営委員会

日時：令和8年1月21日（水） 10時30分から11時20分まで

場所：新宿区役所 大会議室

1 開会

【防火防災対策担当副参事】

定刻となりましたので、ただ今から令和7年度第1回新宿区消防団運営委員会を開会いたします。委員の皆様には、お忙しい中ご出席をいただき誠にありがとうございます。司会、進行をさせていただきます新宿区危機管理担当部防火防災対策担当副参事の下里でございます。どうぞよろしくお願いたします。

はじめに、新宿区消防団運営委員会委員長であります吉住区長からご挨拶をいただきたいと存じます。委員長、お願いたします。

2 委員長挨拶

【吉住委員長】

新宿区消防団運営委員会委員長の吉住でございます。お忙しい中ご出席をいただき誠にありがとうございます。また、日頃から皆様には防火防災行政をはじめ、区政全般にわたりご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

さて、令和7年6月23日付、東京都知事から、切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について諮問がございました。消防団活動を通じて、新宿区の地域防災力の向上につながる答申として取りまとめができますよう、限られた時間ではございますが、ご確認のほどよろしくお願いたします。

なお、本委員会は公開とし、審議内容もホームページ上で公開させていただきますので予めご了承を願います。

それでは、お手元の次第に従い進めさせていただきますので、委員の皆様には活発なご意見をお願いたしまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

3 定数の確認

【防火防災対策担当副参事】

委員長、ありがとうございました。

次に、次第3、定足数の確認でございます。本日、1名の委員がご都合により欠席をされておりますが、18名中17名の委員にご出席をいただいておりますので、定足数に達しており、本委員会は成立しておりますことを皆様にご報告いたします。

それでは、これより議事進行を委員長にお願いたします。

4 委員の変更について

【吉住委員長】

それでは、審議に入る前に、委員の変更がございましたので、事務局から報告をお願いします。

【防火防災対策担当副参事】

委員の変更について、今回、9名の方が新たに就任されておりますのでご報告をさせていただきます。参考資料の新宿区消防団運営委員会名簿をご覧ください。

特別区の消防団の設置等に関する条例第5条第1項第1号の委員として、東京都議会議員のおくもとゆり委員、三雲たかまさ委員、新宿区危機管理担当部長の金子修委員。

同項第2号の委員として、新宿区議会議員の石川孝一委員、佐藤佳一委員、鈴木ひろみ委員。

同項第3号の委員として、四谷消防署長の川村亮太郎委員、牛込消防署長の安田達弘委員、新宿消防署長の沼尾昭仁委員、以上、9名の方が新たに就任されております。どうぞよろしく願いいたします。

5 報告

【吉住委員長】

それでは次第5、報告でございますが、前回の諮問事項、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか、に対する答申を踏まえた対応方針について、事務局から説明をお願いします。

【新宿消防署警防課長】

新宿消防署警防課長の浅野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに、前回の答申における対応方針について報告をさせていただきます。

令和5年8月16日付で東京都知事より特別区内各消防団運営委員会に対し、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきかについて諮問され、新宿区では令和5年8月より委員会を計3回開催し、1年半にわたりご審議いただきました。誠にありがとうございました。新宿区消防団運営委員会では、この諮問に対し、4項目について提言をしました。

第1に、入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について。第2に、最新の技術等を考慮した活動環境等の改善方策について。第3に、消防力維持のための計画的な人材育成方策について。第4に、地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策についてでございます。

お配りしております資料1をご覧ください。新宿区を含めた特別区内各消防団運営委員会からの答申を踏まえ、令和7年6月23日付けで東京消防庁防災部長より対応方針が示され、各種対策を講じているところであります。以下、特別区消防団運営委員会の答申内容及び対応方針の資料に沿って報告させていただきます。

1の諮問事項と諮問の趣旨については、記載のとおりとなります。

次に、第3、主な答申と対応方針ですが、対応方針の赤字の部分については、当委員会が答申

した内容が対応要領に反映された部分となります。前回の答申結果について、赤字の部分のみ説明をさせていただきます。

はじめに、防災訓練や総合防災訓練における都民指導の推進については、前回の諮問に伴うアンケート結果に、団員の多くは地域貢献や災害活動に対してやりがいを感じており、地域に寄り添った活動を行うことが消防団員のやりがい向上のために必要であるとの結果が出ております。

次に、新たな講習や研修の検討については、アンケート結果から、全体の20%の消防団員が資格を取得できることにやりがいを感じていると回答しており、新たな講習や現講習の拡大を検討することとなっております。

次に、消防団内での教養の推進については、これもアンケート結果から、先輩団員より過去の災害の経験談を聞きたいなどの意見もあり、団員同士のつながりや教えを共有する絆を深める交流が必要であるとの結果が出ております。

多言語ツール導入については、アンケート結果から、少数意見ではありますが、外国語の講座受講の希望があることに加え、タブレット端末に翻訳アプリを入れてほしいとの希望もあることから、外国人とのコミュニケーションを不安に感じる消防団員がいることを踏まえ、多種多様な外国人観光客などが多く存在する新宿区におきましては、外国人とのコミュニケーションが円滑に図られるための講座の受講が必要であるとの結果が出ております。消防団専用アプリの導入については、アンケート結果から、災害の連絡に気が付きにくいと、特別区消防団員専用の災害受信アプリの開発及び導入を求める声が多数あったことから、正確かつ迅速に災害が伝達される新しい仕組みが必要であり、新たなシステムやアプリの開発が必要であるとの結果が出ております。

次に、資機材の軽量化、電動化については、前回の諮問に対する方針と同内容のものであるため、前回のアンケートの項目には入っておりませんが、配置資機材の軽量コンパクト化、ホース延長の負担軽減、手引き台車への電動アシストの導入及び酷暑対策用の活動服の導入が必要であるとの結果が出ております。

女性団員の活動しやすい環境については、アンケート結果から、少数ではありますが、活動中に子どもを預けられる託児所を希望する団員もいたことから、引き続き、女性団員の活動しやすい環境の整備を推進してまいります。

実戦的な訓練の継続した推進につきましては、現行のままで良いとする消防団員が半数以上でありましたが、操法訓練はそもそも必要なしや操法訓練を減らして実災害に即した訓練を増やすべきだという意見も全体の20%に達するものでありましたが、一方で、操法大会で良い成績が取れた時にやりがいを感じると回答した団員も多くいることから、実戦的な訓練と操法大会に伴う訓練のバランスを考慮しながら、年間の訓練計画を組む必要があります。

入団時の団員教育。操法訓練や定期的な訓練の際に、消防団員ハンドブックやeラーニングの活用が挙げられていることから、東京消防団eラーニングのコンテンツのさらなる充実が必要であるとの結果が出ております。

SNSを活用した消防団活動の募集広報の推進については、地域のために活動している消防団の活動内容がより多くの地域住民に伝わる広報の手段を展開していく必要があり、デジタル環境等を活用して、より伝わる広報を積極的に推進していく必要があります。

前回の答申における対応方針についての報告は以上となります。

【吉住委員長】

ありがとうございました。それでは、ただ今の前回の答申を踏まえた対応方針について、ご質問等がございましたらお願いいたします。

それでは、大山委員。

【大山委員】

既存資機材の更新に合わせた軽量化、電動化というのはすごく重要だと思うんです。消防署でも、なかなか電動の担架とかが導入されていない状況だと思うんですけども。これはどれぐらい進んでいるのかというのがわかりましたら。消防団に対する資機材の軽量化とか電動化というのはどのぐらい進んでいるのかはわかりますか。今、もしわからなかったら、後でいいですので教えてください。

【新宿消防署警防課長】

後日、調べてご回答したいと思います。

【大山委員】

お願いします。

【吉住委員長】

では、よろしくをお願いいたします。

それでは、佐藤委員。

【佐藤委員】

初めて参加しました。それで、ちょっとよくわからないのでお聞きしたいんですが、東京消防団のeラーニングコンテンツというはどのようなものなのでしょうか。ご説明いただけますでしょうか。

【新宿消防署警防課長】

消防団に配付しているタブレット端末にも入っているんですが、携帯、スマホ等でもアクセスしていただくと、消防団に必要な知識とか技術、また、動画が入ったようなコンテンツが準備されていて、それを見て、在宅でも活動の勉強をしたりすることができるというものです。

【佐藤委員】

それは一般の人も見られるんですか。

【新宿消防署警防課長】

見られないです。パスワード管理されているので、消防団員しか権限がありません。

【佐藤委員】

わかりました、ありがとうございます。

6 議題

【吉住委員長】

それでは次の次第、議題の方へ進ませていただきます。

次第6、議題でございますが、今回の諮問事項、切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について、事務局から説明をお願いします。

【新宿消防署警防課長】

続いて、新宿消防団運営委員会への新たな諮問について説明をさせていただきます。

お配りしております資料2をご覧ください。1、諮問事項ですが、先ほど区長からもお話がありましたように、令和7年6月23日付で、東京都知事から新宿区消防団運営委員会委員長に対し、切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について諮問がございました。

審議期間ですが、令和7年7月から令和9年3月までの1年9か月間となり、答申期日は、令和9年3月31日となっております。令和7年度、令和8年度については、新宿消防署が担当となります。よろしく願いいたします。なお、期間内に本日を含め委員会を3回開催する予定ですのでよろしくお願いいたします。

3、諮問の趣旨については、令和6年元日に発生した能登半島地震では、輪島市での大規模火災など17件の火災が発生し、消防団自ら被災しながらも地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや消火活動など懸命な活動を展開しました。首都直下地震では600件を超える火災が発生すると想定されており、新宿区内でも同時多発的に火災が発生する恐れがあり、新宿区民の安全安心を守るためには、消防署隊との連携した訓練や活動はもとより、消防団の活動については、消防組織法第18条の3項に規定する、消防団は、消防庁、消防署長の所管のもとに行動するとされておりますが、震災時については、災害の発生状況により消防団単独での長時間活動を余儀なくされることが予測されるため、消防団が主体的に実践的な訓練を推進し、災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが必要不可欠となります。その実現に向けて、消防団の災害活動力を継続的に高めることが重要であり、併せて消防団活動に対する現状の消防団員の負担軽減にも配慮した取り組みが求められています。これらを踏まえ、切迫する首都直下地震への大規模災害に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力を継続的に強化していくための方策について諮問がされております。

次に裏面となりますが、諮問に対する課題とそれぞれ検討項目が示されております。

課題1については、災害対応力の強化と訓練の実効性を高めることが重要である、です。この課題に検討事項が二つございます。検討事項1については、首都直下地震を想定した実践的な訓

練の定着についてです。この検討事項に5点の検討項目がございまして、①現行の訓練内容の再評価による訓練推進方策。こちらは、実災害での活動を教訓とした訓練内容の見直し、ブラッシュアップの検討となります。②東京消防団eラーニングシステムを活用した教育訓練体系の構築。こちらは、消防団員個々のeラーニングシステムの進捗管理や習熟度が見える化し、体系的な訓練を実現するための検討となります。③訓練経過や訓練内容の見える化の推進方策の検討。こちらは消防団専用アプリを実現し、各消防団員の訓練記録の共有を図り、データ化を推進するための検討となります。④実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進。こちら、現在、実施しております消防署隊との連携訓練をパッケージ化することで、中長期的な訓練計画を策定するための検討となります。⑤震災等における長期間の活動継続を視野に入れた訓練の検討と課題の抽出。こちらは、震災時に同時多発的に災害が発生した場合、消防団単独の長時間対応や災害現場での活動交替を想定した活動継続力を強化するための訓練方法や課題の抽出の検討となります。以上5点が検討事項となります。

続いて、検討事項2については、消防団が自ら企画・実施する主体的な訓練の推進と充実についてです。この課題について検討項目が二つございます。①各消防団の地域特性に応じた訓練内容・方策の検討。こちらは、管轄区域ごとの地域特性や団員の年齢構成に応じた訓練内容等の検討になります。②東京消防庁の方面訓練場や消防署訓練施設の有効活用に向けた方策の検討。こちらは、大規模災害時における隣接消防団との連携活動を踏まえた訓練の実施の検討となります。以上2点が検討事項となります。

続いて、課題2については、消防団員の負担軽減と活動環境の最適化が重要であるということです。この課題にも検討事項が二つございます。検討事項1については、消防団活動の効率化による負担軽減についてです。この検討事項には四つの検討項目がございまして、①消防団専用アプリ等の導入による消防団運営の効率化や情報伝達体制の強化。こちらは、消防団専用アプリを実現化することで、出場指令、災害情報等をリアルタイムで情報共有。また、各報告書類をオンラインで提出できるようにするなど、事務手続きの簡素化を図るための検討となります。②各種資機材の機能性、利便性向上に向けた改善方策の検討。こちらは、現在、消防団が使用している車両をはじめとした各種資機材のコンパクト化を図ることにより、操作性、移動性を向上するとともに、現行資器材の使用実態を踏まえた有効性を再評価し、真に必要な資器材のあり方の検討となります。③従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討。こちらは、新たな消防団点検の試行等を踏まえた負担軽減方策を検討し、続けやすい消防団の実現を図るための検討となります。④操法大会（訓練を含む）の工夫や改善などへの提案。こちらは、現在の操法大会の実施形態を踏まえ、競技性の高い現行の実施方法から実効性重視の方法に見直し、提案、検討をするものです。以上4点が検討事項となります。

検討事項2については、多様な主体との連携による被害軽減方策についてです。この検討事項には三つの検討項目がございまして、①各防災関係機関と連携したさらなる入団促進。こちらは、さらなる入団促進を図るため、SNSや地域の広報媒体を活用し、消防団の魅力を発信していく方策の検討となります。②町会自治会や学校コミュニティ等とのさらなる連携強化。こちらは、地域と連携し、消防団活動を身近に感じられる機会の創出、消防団活動に対する理解を促進させるための方策の検討となります。③在留外国人、外国人観光客への防災指導に関する検討。こち

らは、多言語に対応できる防災啓発資料を整備するなど、消防団員による外国人を対象としたわかりやすい防災指導のあり方についての検討となります。以上3点が検討事項となります。

2点の課題とそれぞれの検討項目を踏まえ、消防団員の実情を把握するため、別添の20項目のアンケート調査を実施しようと考えております。各団の定員を考慮し、四谷消防団員50人、牛込消防団員60人、新宿消防団員140人にアンケート調査を実施し、アンケートの間にあるとおり、首都直下地震発生時の活動について、その効果的な訓練方策、訓練の必要性、消防団員の負担軽減と活動環境の最適化を実現するために現状実施している訓練の見直しと変更、また、その必要性。現在の活動環境において負担を感じている活動の把握と負担軽減効率化の必要性。専用アプリ等を活用したデジタル化に対する消防団員の要望や意識の把握及びその必要性等についてアンケート調査を取りまとめ、次回の委員会で調査結果を踏まえた課題、検討事項に対する方策について答申案を作成し、委員の皆様にご検討、ご審議を賜りたいと考えております。

新たな諮問についての説明は以上となります。本諮問に関し、質疑や答申案作成に対するご意見、ご要望等がございましたら、新宿消防署までご連絡をいただくと幸いです。私からは以上となります。

【吉住委員長】

ありがとうございました。それでは、ただ今の説明についてご質問等がございましたらお願いいたします。それでは、おやまだ委員。

【おやまだ委員】

今、何をすべきかというのをちょっと把握したいんですけども。この場でこの内容に対して話し合うというよりは、アンケートの結果を踏まえて、次回のこの委員会の時に皆さんで議論するということであってはいませんか。

【新宿消防署警防課長】

先ほど申したとおり、アンケート調査を踏まえ、現状と団員がどういうふうに思っているのかというところの実態把握をした上で、アンケート結果を求めて、事務局で答申案を作成しますので、次回の委員会でそちらの答申案についてご審議をいただきたいと考えています。

【おやまだ委員】

わかりました。では、何か意見とか質問などは次回の委員会の時にまとめてお伺いしようと思います。

【吉住委員長】

整理をありがとうございました。吉住委員。

【吉住委員】

ご説明ありがとうございました。おやまだ委員の方から団員のアンケートの調査の結果という

話がありました。私も、今、休団中ではございますが、一応、団員でございますが、まず一つは操法大会の話です。競技性から実効性重視の見直しの提案というところなんです、これは非常に賛否両論があるのかなと認識をしております。今、すごく熱心にやられている方は、1年に1度の操法大会に向けて、それが消防団員であることの一つのモチベーションになっているという面もありますし、一方で、それを冷ややかに感じている団員も一部にはいるのかもしれないかなというふうに感じています。皆さんにアンケートをとられるということなので、今までの伝統とか先輩方からの教えとか、そういうものを引き継ぐ上で、操法大会は非常に重要な役割を担っているのかなというところも感じるので、今後、皆さんのアンケートの結果が待たれるんだろうと思うんですけども、その辺もよくよく聞いていただければと思います。

もう一つ、多様な主体との連携によるというところなんですけれども、これは、実は私も議会の方でもずっと言い続けていることでございます。例えば、行き所のない外国人、要は帰宅困難者と言いますか、その方々への対応などについては、一時滞在施設の方に誘導をしなければいけないということで、東京都の方でそういうアプリをつくったりして、混乱なく外国人の方々を一時滞在施設へ誘導しようとうことを東京都でも取り組んでおります。例えば、消防団がそのような、どういうふうに行っていかわからなくなったような外国人の方々を近くの一時的滞在施設へ誘導するといったケースも含めて考えられるような話なのか、それとも、そういうことではなくて、困った時にはアプリで相談に乗るよという程度の話なのか。その辺を消防庁と総務局とか産業労働局とかいろいろな局と連携があると思うんですけども、この話はどの辺までの話なのかというのをちょっとお伺いしたいと思います。

【新宿消防署警防課長】

基本的には、消防団員が外国人にわかりやすい防災訓練をしっかりと展開できるように翻訳アプリを使ったり、防災資機材を整備したりというところの検討になると思います。ただ、おっしゃっているとおり、震災時については消防団員の必要性は無限大だと思いますので、そちらの方については、今回実施するアンケート結果をもとにして、そちらの部分についても検討をしたいと考えております。

【吉住委員】

あともう一つ、新宿の特性としては、地域住民の方以外にも地域に事業所が多いという特性があります。震災というのはいつ起こるかかわからないので、昼間などに発生した場合には、要は昼間人口が非常に多いわけで、そういった方々との災害時の連携ということも重要になってきます。この間、協働団体の会合もございましたけれども、そういうことも重要になってくるとは思うんですけども。例えば、事業所の方が団員になりたいと言った時に、準公務員扱いになったりすると、大企業だと何かいろいろ難しい手続きを会社の中で取らなければいけなかったりして、なかなかハードルが高いというお話も聞いています。要は、地域の事業所の方々が団員になりやすくなるような方策というか、消防署の方での工夫と言いますか、そういうことはできないものなのかと思ったりもするので、それはアンケートで多分出てこないと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

【新宿消防署警防課長】

別の団を挙げると、丸の内消防団などは、ほぼ100%が事業所団員ということで、その丸の内消防団に入団するための、今おっしゃっているような不便さというのは、私の方では把握をしていません。新宿消防団についても、事業所団員というのはもう6割以上いるんですけれども、今のところ、入団に関して不便等を感じているということはありませんが、そういった声もあるということなので、他団の状況等も確認しながら、そちらの方も検討の俎上に上げさせていただきます。

【吉住委員】

私自身もそういうお話を聞いたという程度でここで発言をして申し訳ないんですけれども。事業所の方々に入っていただくことによって、その会社の中での地域の防災意識も高まるのかなど思ったりもしますので、事業所の方々が入りやすい、他の団の良い事例なども参考にさせていただきながら検討していただけるとありがたいなと思いました。

【新宿消防署警防課長】

各事業所に対して、消防団に対する理解を深めるために丁寧な説明をするのは必要かと思えますので、貴重なご意見をありがとうございました。

【吉住委員長】

それでは、おくもと委員。

【おくもと委員】

1点、質問をさせていただきます。今回の消防団員用のアンケート調査というのは、このような形で実施するのは初めてなのか。これまでも団員に向けて何度か定期的に行っていたのか、お聞きしたいです。

【新宿消防署警防課長】

最初に説明した前回の諮問に対する答申についても、牛込消防署が事務局となって、同じ3団に対してアンケートを実施した結果を踏まえた答申案ということなので、アンケートについては今回が初めてではありません。

【おくもと委員】

ということは、2回目ということによろしいですか。

【新宿消防署警防課長】

その前の四谷も、やはり諮問に対する答申案をつくるためのアンケート調査は実施しております。

【おくもと委員】

わかりました。定期的に行われているという認識でよろしいですか。

【新宿消防署警防課長】

そうですね。今、言ったとおり、新たな諮問があった場合について、まず、消防団の現状だったり、気持ちだったりというのを確認しなければいけないので、そのためにはアンケートは非常に有効な手段だと考えておりますので、引き続き、アンケート調査については折を見て実施しようと考えてございます。

【おくもと委員】

ありがとうございます。私は新宿区に来る前に、別の地域で区議をやっていたんですけども、その時もなかなか女性が消防団に入るというのはハードルが高くなっていました。実際に活動されている皆さん方の声とかを聞いてみると、結構いろいろなことで、人間関係に悩んでいたとか、それで行きづらくなってしまったとか。本当は参加したいんですけども、団同士があまり仲が良くないとか、どっちに入ったらいいんだろうとか、自分はこっちに住んでいるんだけどとか、結構いろいろ細々した小さな悩みが原因で消防団に参加することができなくなってきたなという印象をすごく受けたんです。今回のアンケートみたいなものも、もちろん定期的にやっていただきたいですし、団員の方が日頃悩んでいるようなこととかを拾い上げるようなシステムとかを、せっかくアプリとかが導入されているので、そういうもので積極的に汲み上げていただけたらいいなと思うんですけども、いかがでしょうか。

【新宿消防署警防課長】

貴重なご意見ありがとうございました。検討させていただきます。

【吉住委員長】

それでは、三雲委員、お願いします。

【三雲委員】

三雲でございます。ご説明をいただきありがとうございました。ご説明のあったアンケートの案を拝見したところなんですけれども、これまでの訓練であるとか、操法大会、消防団点検に関して、より実践的な訓練であるとか、実効性の高い訓練という言葉を使っていらっしゃる。これはそういうふうに分かれば、当然、よりそうである方が望ましいということで、おそらくもうこれは答えが決まってしまう間になるのかなというふうには思っているんです。今までやってこられた訓練や操法大会等に関しても、規律性であるとか、競技性というところも確かにそうかもしれませんが、それなりに合理性があって、こういう形で今までやってこられた部分もあって、それが少しずつ変わってきたという議論はそのとおりだと思います。そうすると、実際にやっていらっしゃる方々から見て、どのように見えているのか。要するに、今の訓練は実践性が

ないというふうののっけから言ってしまっているのか。そうではなく、どう見えていますかというところで、例えば、より実践的な訓練の方が望ましいという声がありますけれども、どの部分が実践性に欠けているのか、ちょっと形式的すぎるのではないかとされているのかというあたりから消防団の皆さんにお聞きして行って、そういったところを検討していくという手順をとる方が、今後の方策を考える上で、より効果的なアンケートになるのではないかと考えています。その意味で、問8、問10、問11あたり、もう少し工夫があってもいいのかなと思うんですが、いかがでしょうか？

【新宿消防署警防課長】

ありがとうございます。検討させていただきます。

【おやまだ委員】

関連、いいですか。

【吉住委員長】

おやまだ委員。

【おやまだ委員】

三雲委員の質問に関連してなんですけれども、問5に関してなんですが、操法大会のあり方というのは、今後、大きく議論されていくのかなと思うんですが。アンケートの中に、今、新宿だと6月に実施をしていると思うんですが、この実施時期についてどう考えているかみたいな問を一つ入れていただきたいと思います。実はもう3月、4月ぐらいから本格的な練習を始める分団が多いと思うんですが、5月とかになると滅茶苦茶暑くて、訓練中に熱中症で倒れてしまうような状況とかも、今の時代だとあり得るのかなと思うので、開催の時期、実施時期について、団員の皆さんがどう考えているのかという問を一つ入れていただくと、よりいいアンケートになるのかなと思ったので意見をさせていただきました。

【新宿消防署警防課長】

ありがとうございます。

【吉住委員長】

それでは、石川委員。

【石川委員】

今回、私も委員として初参加させていただいたんですが、私自身も新宿消防団に所属させていただいており、1点、消防団員として感想というか、意見を述べさせていただきたいと思います。課題と検討項目1の④の実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進というところで、新宿消防団では、各分団持ち回りで宿泊研修を新宿消防署で受けているんですが、私自身も2年連続で

受けさせていただいて、これは本当にすごく入団してためになったと感じております。実際、現場へ署員の方についていって、後方支援という形で研修をさせていただいているんですが、歌舞伎町とか高田馬場へ出動に行くと、通報者が外国人だったりして、新宿消防署の署員の方が英語で対応したり、実際にそういうのを見ると、消防団員も今後はeラーニングも含めて、外国語の対応が本当に必要だなということを実体験しました。タブレットでの翻訳機能とか、実際に必要だと私自身も感じましたので、今後、そういう部分もアンケートに入れていただければと思います。そういう意見で終わらせていただきます。

【吉住委員長】

ありがとうございました。山口委員。

【山口委員】

山口です。今、石川委員がおっしゃったことに少し重なるんですけれども、課題の1の方で、各消防団の地域特性に応じた訓練内容ということで、おそらく、石川委員と私は地域が重なっている所がありますので、外国の方が多い地域ですと、やはりそういう特性があるのかなという点。

それから、課題2の検討事項2の多様な主体との連携というところなんですけど、地域の消防団の方が消防団に入った経緯をお伺いすると、やはり町会だったり、PTAだったりというところから声をかけていただいたという話もございます。そういった中で、今回のアンケートにはあまり地域特性の話、それから多様な主体との連携についての質問というところがあまり入っていないようなので、もし可能でしたら、その点にも触れていただければと思います。ちょっとボリュームが多くなって回答も大変なところもあるかと思いますが、ぜひ、お願いしたいと思います。

【新宿消防署警防課長】

ありがとうございました。

【吉住委員長】

皆様に活発にご意見をいただきましたが、その他、ご発言はございますでしょうか。

それでは、川村委員、お願いいたします。

【川村委員】

四谷消防署長の川村でございます。今まで委員の方々からのお話をお伺いして、私なりにちょっと考えた話なんですけれども。吉住先生からあった話で、個人事業主様はやはり地元に着したいということで、個人事業主様は非常に消防団に入っているのは、皆さんご存知のことだと思います。四谷の場合は、ある管内事業所さんが非常に地域防災というところに重視をさせていただいておまして、四谷管内事業所さんの社員を消防団員として何とかならないかということで、うちの担当者に足を運ばせて、いろいろと向こうの勤務状況とか、どういった方に参加していただけるかということのを3か月詰めて、ようやく1人の方に入らせていただけたという状況になりました。先生がおっしゃっているような、消防署として入りやすい制度というのとはち

よっと話が違うんですけれども。そういった細かい希望を取って、足を運んで、そちらの勤務環境に合うような状況をつくり出していくというのは、消防署の務めなのかなと思っておりまして、四谷消防署管内でもそういった企業はありますので、引き続き、そういった努力はしていきたいと感じております。

それから、おくもと先生からありました、個人的な悩みをあげるというのは、ちょっとこの場では違うのかなと。先生、大変申し訳ありません。消防団の制度とか装備、訓練内容、教養という細かい意見を拾い上げるアンケートだと思いますので、個人的な悩み、どこかぎすぎすしているという悩みをあげると、多分、それはどこかの悪口につながっていくような気もするので、そういったアンケートを拾うところではないのかなと思うんです。そういったところは各分団で、分団長という責任者がおりますので、個人的な悩みはお互いの話を聞いて解消していく場がありますので、個人的な内容よりも、こういった内容がわからないとか、こういった装備はちょっと合わないとか、そういった細かい設問を拾っていくようなアンケートなのかなと思っておりまして、個人的な人間関係を拾うような設問はちょっとそぐわないのではないかと感じました。

あと、操法大会に関しては、形式的といったところは代々言われているんですけれども、やはり勝つところは、駆け足とか、気を付けとか、敬礼の腕の高さとか、そういったところに傾注する。あと、分団ごとに競うんですけれども、分団で指定された方しか訓練をやらない。そうすると、周りの方は支援をする。そうすると、その方たちばかりということではないんですけれども、やはり、そういう方に対して技術が身に付かないという現状があるのかなと思ってます。操法大会は決して形式的な訓練ではなく、震災時でも誰でも火を消すためには、操法を学ばないと火は消せない。逆に言うと、あれを学びさえすれば火が消せるというつくりになっておりますので、そういった意識でこれからも訓練をやっていただく必要はあるのかなと、どこに重きを置くかという感じなのかなと、今、話を聞いて感じておりました。

おやまだ先生からありました実施時期については、私は消防署の人間ですので口は出せないんですけれども、私も実施時期は検討する必要はあるのかなと感じておりますので、そういったところは意見として、消防団の方の意見を拾っていくべきかなと感じたところでございます。ざっくばらんですみません。

【吉住委員長】

ありがとうございました。大山委員。

【大山委員】

アンケートにいろいろな意見が出て、充実したものにさらに改善していただくということと、あと、今回は、そのアンケートの結果を見ながら答申案の議論をするということになりますよね。

そうすると、今回も今日の資料が催促をしないと来なかったんです。ですから、答申案の議論ですので、案文ができた段階でアンケートのまとめも含めて、それぞれ提供していただいた方がより充実した議論になるかなと思いますのでよろしくをお願いします。

【吉住委員長】

では、資料は早めにとということでよろしく申し上げます。

【新宿消防署警防課長】

承知しました。

【吉住委員長】

このアンケートは、私が消防団員をやっていたような時代もやっていたので、もうかなり昔から定期的にやられているものです。あと、私も消防団員でしたし、家族も消防団員なので、分団の中のいろいろないざこざとか、分団長がいきなり辞めるとラインが送ってきたりとか、そんなところもございますけれども、準公務員でありつつ、ボランティア的な要素も非常に強いというところで、なかなか難しいところもあるんですが、皆さん、組織が崩れないように、仲間が来なくなってしまうようなことは避けるために、一生懸命、お互いに気遣いをしながら活動されています。

それから、選手であったりサポートであったり、いろいろな形で訓練に参加していても、一緒に訓練をしていることによって、その場で誰でもちゃんと操作ができるということを身に付けるという意味では、基本をまずしっかり押さえて覚えていく訓練というのは重要だと思います。質問にも出ていましたけれども、それも、アンケートの中で意見を聞いていくことになると思います。

設問数が増えていくと、回答される団員の皆さんの負担もあります。アンケートの結果を確認した上で、さらには、消防団で実際に活動されている皆さんのご意見もしっかりと聞いて、本来のあるべき姿を答申として出していくべきであろうと思われまますので、その辺は情報をしっかりと出していきつつ、中身はまた精査していただきながら取りまとめをしていただければありがたいと思っております。

それでは、活発なご意見をいただき誠にありがとうございました。本日予定しておりました審議は終了となります。円滑な進行にご協力をいただき誠にありがとうございました。それでは、以後の進行を事務局へお返しいたします。

7 その他

【防火防災対策担当副参事】

委員長、ありがとうございました。

それでは、次第7、その他、今後の審議予定について説明をいたします。本日、皆様にご審議いただいた内容を踏まえ、答申案を作成し、次回の委員会でご審議をいただきます。次回の委員会は7月中を予定しております。日時が決まり次第、事務局から開催のご案内をさせていただきます。また、本日の委員会の議事録が完成次第、皆様にお送りさせていただきますので、お手数ですが、内容をご確認いただきますようお願いいたします。問題がなければ、区のホームページに掲載をさせていただきますのでご承知おきください。

8 閉会

【防火防災対策担当副参事】

以上をもちまして、本日の全ての議事が終了いたしました。本日はご多忙のところご出席をいただき誠にありがとうございました。これにて令和7年度第1回新宿区消防団運営委員会を閉会いたします。誠にありがとうございました。